



女性目線を活用した中小建設業者の 強靱化 ～なでしこ BC 連携～

大山 浩 治・古 江 早 苗・佐 藤 佳 世

「なでしこ BC 連携」は、災害対応力の向上を目的として、徳島県の地域建設業者が中心となって発足した女性が中心となって活躍する地域建設業ネットワークである。安全環境点検活動「なでしこパトロール」、緊急支援受援訓練、炊出し訓練、救急救命訓練などの活動を参画企業が合同で実施している。本稿では、発足の経緯と展開、活動内容、活動の硬化、現状の課題と今後の取組み予定について紹介する。

キーワード：災害対応力、事業継続能力、BC（事業継続）連携、地域ネットワーク、なでしこパトロール

1. はじめに

建設企業は、建設技術者や技能者の持つ技術・技能や工事経験、建設機械等による機動性、地元の地形・地質・地域コミュニティに関する情報の保有などの特徴を活かし、従来から自然災害時の応急・復旧活動の中心的な担い手となっている。

それゆえ、建設業界では、自然災害や事故に備えるため、多くの会社がBCP（事業継続計画）を策定している。

しかし、ある地域の建設会社がどれほど災害対応力を向上させたとしても、一企業単独ですべての不測事態に対応することはできない。

災害発生時に事業継続能力を確保するためには、同業他社と連携し、相互に支援するネットワークを構築する必要がある。そんな考えから、「なでしこ BC 連携」は生まれた。

本稿では、発足の経緯と展開、活動内容、活動の効果、現状の課題と今後の取組みについて紹介する。

2. 発足の経緯と展開

なでしこ BC 連携は、平成 26 年の大雪の際に、徳島県つるぎ町の(株)井上組が、社員が疲弊しながらも災害対応に追われた経験から、災害対応時に他の地域からの支援受援の必要性を感じ、徳島県鳴門市の(株)福井組と取り組み始めたものである。

この企業連携は、当初、企業トップ間で検討が行われていたが、連携を行う上で、社員を含めた企業間の相互理解が重要な課題であると考えた。そこでまずは、

「連携の相手を知る」ことから取組みを始めることとした。

また、建設業の男性社員は現場等の外勤が多く、本社業務の多くを女性社員が担っており、災害発生時に各社が連携体制を組むには女性社員の果たす役割は大きいと考えた。

そこで、まずは連携相手を知ることを目的として、女性社員による現場安全パトロール「なでしこパトロール」を、(株)福井組の現場で実施した。

この「なでしこパトロール（写真—1）」を通じて、連携企業の営業拠点への交通経路の理解や社員同士による意見交換を行い、相互理解を深めていった。

こうした女性目線の安全環境点検活動「なでしこパトロール」をきっかけに、多くの賛同者が集まり、県内企業間での強固な連携だけでなく、岡山県や和歌山県、高知県企業との連携を実現している（図—1）。



写真—1 なでしこパトロール実施状況



図一 1 BC 連携ネットワーク (令和元年度)



写真一 2 炊出し訓練の実施状況

3. 活動内容

本格的な BC 連携を開始した平成 26 年度からこれまでの主な活動を以下に紹介する。

(1) なでしこパトロール

なでしこパトロールは、平成 27 年 2 月から令和元年 7 月までに、13 回実施している。お互いに他社の工事現場を見学し合い、職場環境・衛生面のチェックを行い、業務内容、工法等の相互理解を深め、社員同士による意見交換を通じて多くの成果を挙げることができている。その結果、各社の現場力・現場環境の向上につながっている。

(2) 災害支援合同訓練

当初 2 社から始めた取組みに、徳島県牟岐町の(株)大竹組が参加し、平成 27 年 9 月に 3 社で初となる災害支援合同訓練(図一 2)を脇町堤防工事現場において実施して、「なでしこパトロール」、「緊急時連絡訓練」及び「炊出し訓練(写真一 2)」を行った。



写真一 3 第 2 回災害支援合同訓練の状況

平成 28 年 6 月には、徳島県内の建設業者 7 社、飲食業者 1 社、岡山県内の建設業者 2 社、和歌山県内の建設業者 1 社との BC 連携提携へ発展し、第 2 回災害支援合同訓練を脇町・東みよし町の堤防工事現場にて実施した(写真一 3)。

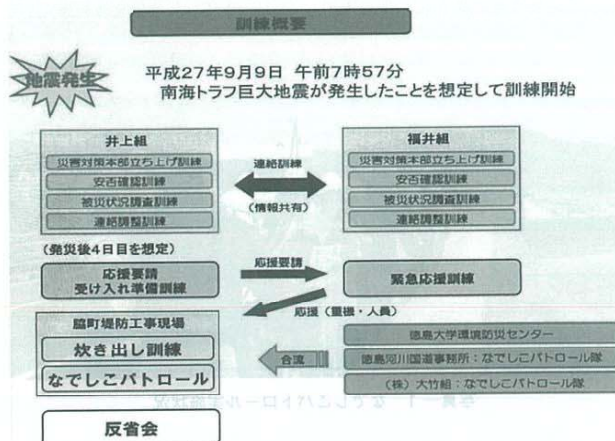
これにより、徳島県内だけでなく四国外の建設会社との連携が構築され、災害時における更なる対応力向上に大きな期待が広がった。

この訓練では、BC 連携企業間の安否確認訓練や炊き出し訓練を実施した。さらに、恒例の「なでしこパトロール」も実施して、現場の安全衛生面や作業環境整備を女性目線で点検を行った。

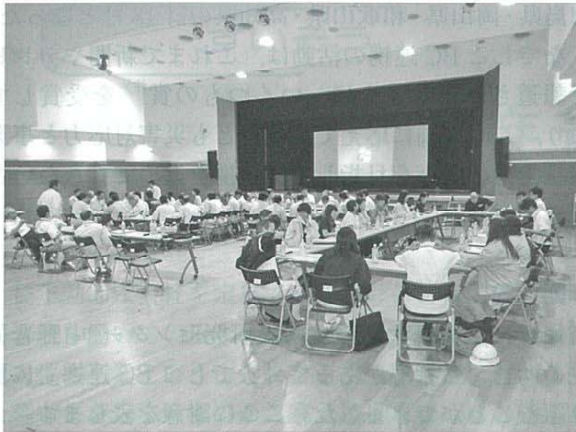
(3) 分科会活動

第 2 回合同訓練の後に、「安全」、「品質」、「BC 連携」、「女性雇用・環境」の 4 分科会を開催し、それぞれの担当部会で意見交換を行った(写真一 4)。

当初は、災害時各会社の地域特性や災害リスクが異なるため、短所を補うことができれば事業継続につながるという考えから始まったが、災害対応だけでなく平常時から多様な共通の課題を連携して取り組むこと



図一 2 第 1 回災害支援合同訓練の概要



写真—4 第2回合同訓練の状況



写真—6 図上演習の状況



写真—5 ICT 施工見学会の集合写真



写真—7 なでしこ BCP パトロールの状況

により各会社の企業力向上につながる取組みに変化しつつある。

(4) ICT 見学会

国土交通省を中心に ICT 技術を全面活用し土木施工を行う i-construction の導入が進められ、平成 28 年以降は BC 連携企業による「なでしこパトロール」を行うとともに、ICT 技術の現場見学会（写真—5）を実施している。

(5) 女性目線の座学訓練

平成 29 年 8 月には、「道路啓開等の災害初動期を女性目線で考える図上演習」を行った（写真—6）。女性の特性である情報処理能力に注目した座学訓練は、初の試みであった。後方支援の役割を担う女性を中心に、知り得た情報を共有することで、迅速な支援を提供できる体制の構築に繋がった。大規模災害発生時の対応が必須となる官及び建設業者にとって、官民連携で情報共有の在り方を学ぶことは、相互理解・改善に繋がる活動となった。

また、平成 29 年 11 月には、「なでしこ BCP パトロール」として他社の BCP のチェックを行った（写真—7）。これは、客観的視点で BCP の状況を確認し、改善につなげることで実効性を高める活動となった。

4. 活動の効果

なでしこパトロールを年数回実施する以外に、緊急時連絡訓練を取り入れる等、各社の連絡体制の強化に当たっている。また、平成 29 年 8 月より『なでしこ掲示板』を設置し、情報共有・情報提供の場として活用している。平成 30 年 12 月には、掲示板を利用した「女性職員による情報収集・整理訓練」を行い、事務職員を中心に被災状況・周辺被害状況・支援情報などをまとめるなど、平時からの訓練の場としても活用している。災害時対応訓練では、作業服を使用した担架作成や重量物移動訓練、救命救急訓練なども実施した。なでしこパトロールやその他訓練により、女性の活動幅を広げると共に意識向上にも繋がっている。

更に「なでしこパトロール」は、新聞やテレビ等のメディアに 20 回以上取り上げられ、連携業者、ひいては建設業のイメージアップになっている。メディア

を活用し、なでしこ BC 連携の取り組みを発信する事で、若者に建設産業の魅力を感じてもらい入職促進に繋げることは有益であると考えます。また、現場従事以外の女性の現場理解や、連携業者間の従業員・現場担当者などの交流にも繋がっている。

5. 今後の取組み

平成 26 年 12 月から始まった活動が 5 年目を迎える。参加規模が拡大していることもあり、なでしこパトロールだけでなく災害時対応訓練や図上訓練など様々な手法を取り入れながら活動を行っている。

平成 30 年度からは地域に特化した小規模化でのなでしこパトロールを実施するなど、さらなる展開を開始している。また、今年度は協議会を発足し、情報共有・円滑な組織運営、組織の更なる発展を目指している。今後も災害対応能力向上・女性活躍推進を軸に、柔軟な対応体制で取り組んでいきたいと考えている。

また、BCAO（事業継続推進機構）地域勉強会への参加や、HP・Facebook 等により情報発信を強化し、質の高い連携体制の構築を目指す。

6. おわりに

なでしこ BC 連携は、南海トラフ巨大地震の発生時等にそなえ徳島県内 2 社で発足した。近年、建設業における人手不足が懸念される中、災害対応力強化に加え、若者や女性に建設産業の魅力を感じてもらい入職促進に繋げることは有益であると考えます。

この活動を通して、現場従事以外の女性の現場理解や、連携業者間の従業員・現場担当者などの交流にも繋がっている。現在、なでしこ BC 連携参加企業は、

徳島県・岡山県・和歌山県・高知県の計 18 社となった。

なでしこ BC 連携の活動は、これまで新聞やテレビで報道されるとともに、いくつもの賞^{注)}を受賞しており、この評価に応じて、今後とも災害対応力と事業継続能力の向上を目指して、連携を進めていきたいと考えている。

謝 辞

最後に、徳島大学環境防災研究センター 中野晋先生の助言・ご指導があって「なでしこ BC 連携」に取り組むことができました。ここに謝意を表します。

注)

- ・ジャパン・レジリエンス・アワード 2019「最優秀レジリエンス賞」
- ・BCAO アワード 2017 事業継続部門「大賞」
- ・BCAO アワード 2015「特別賞・優秀実践賞」

【筆者紹介】

大山 浩治 (おおやま こうじ)
 株式会社
 常務執行役
 営業兼企画統括



古江 早苗 (ふるえ さなえ)
 天野産業株式会社
 総務部 課長
 BCM 推進チームリーダー



佐藤 佳世 (さとう かよ)
 株式会社
 営業部
 働き方改革推進室 室長

